

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	I L e 糸満 かなさ		
○保護者評価実施期間	R7年 6月 1日		～ 8年 5月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	R7年 6月 1日		～ 8年 5月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 5月 29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動内容やプログラム内容	活動内容を固定化せず、年間計画の作成と月々の目標を設定したきめ細かな活動提供を行っています。その目的のある活動を通して、日々お子様の療育の提供、自主性を育む為の支援を実施しています。	本児のレベルに沿いながら進級(小学校)を見据えた支援を展開しています。集団生活をメインに個々の能力に応じた配慮を行うとともに、発達検査や証に精神科病院との連携も充実しつつ今後も引き続き支援を行っていきます。
2	個別支援活動	集団より個別の支援が必要なお子さんに対して言語トレーニング、作業療法トレーニング、心理側面的に必要な支援を提供しています。集団と個別のミックスした支援の提供を通して、社会参加を促しています。	作業療法士の専門スタッフによる感覚統合療法を実施しています。個別のニーズによって本人の課題に沿った支援を展開しつつ、各領域に特化した支援を実施しています。
3	専門職員との情報共有 クリニックとの連携	在籍の職員の専門性、所持している資格に応じた支援の提供、クリニックや専門職員との情報共有と情報判断に力を入れています。特に、クリニックとの連携は保護者様の安心につながり、必要な時に必要な受診に繋がるパイプ役を担っていることはすごく重要性を感じています。	発達検査や個々の特性に応じた検査を事業所内でいっつつ課題の整理と保護者アプローチを図っていきます。個々の特性による支援の中で、特に重要な課題を今後も連携施設と図っていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々の療育の内容を保護者に伝える情報発信が乏しい	日々、療育を受けている保護者様に対してどんな内容か、実際の療育場面の状況、お子さんの姿が見えにくいよう感じていないか感じます	SNSやお知らせ、保護者療育体験会等を通してより今以上にどのように療育を受けているか可視化していく事が重要と感じています
2	地域に根付いた情報発信と関わり方について	小学校3年生までの在籍期間の中で、地域へ移行が必要なお子さんによる社会資源の情報が乏しいと実感しています	地域の社会資源を調べ、そういった関わりのある資源との交流の機会を作っていくために、こちらからチラシや企画、パンフレットを配布していく必要を感じています。
3	福祉、医療が必要なニーズある地域の保護者への情報発信	地域に福祉を必要としているご家庭、発達に悩みのあるご家庭の声を聴くことが少ないと実感しています	SNSを通して発達検査や医療の必要がある家庭へのパイプ役としての事業所のあり方を今後も引き続きになっていきます。その中で、より地域に根付いた誰でも相談できる場所、発達検査を出来る場所としての展開を図っていきたく感じています。